

### 基準3 教員及び教育支援者等

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①: 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

平成24年度における一般科目担当教員の配置状況(資料3-1-①-1)の示すとおり各教員の担当科目と専門分野の整合性は取れており、一般科目担当教員の配置は適切であるといえる。専任教員のうち、一般科目担当教員の修士以上の学位取得率は89%、高等学校教諭免許取得率は37%である。さらに、非常勤講師を含み他高専・大学及び中学・高校における教育経験を持つ教員は現員の70%を占め、多様な教育経歴をもつ教員を採用し、高度な教科教育・人格形成教育を目指している(資料3-1-①-2)。

主に一般科目を担当する総合科学科所属の専任教員数は現員20名である。高等専門学校設置基準第6条第2項の規定では、4学級の場合での一般科目専任教員数は18名を下回ってはならないとあるが、本校の教員数はこれを満たしている。また非常勤教員数は20名で、非常勤講師雇用基準(資料3-2-②-4)をもとに、専門分野の見識やこれまでの経験を考慮し、選考されている。

教育方針に掲げる「国際社会を主体的に生きる」技術者の育成のために、英語教育を特に重視し、英語を母国語とする教員を採用している。また、「徳性を養い、将来創造力のある風格高い人間・技術者」を育成するため、芸術系科目を含む選択科目を担当する非常勤教員を配置し幅広い教養を培うことを目指している。

資料3-1-①-1

「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(1/4)

## 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
総合科学科 人文系	細川 光洋	准教授	日本近代文学	国語Ⅰ
				日本語表現
	永原 順子	准教授	日本文化論 宗教民俗学	国語Ⅱ
				日本語表現
				中国語会話
				中国文化論
	池谷 江理子	教授	ジェンダー地理学 経済地理学 社会経済地理学 環境地理学	地理
				環境地理学
				人間と科学技術
	江口布由子	講師	ヨーロッパ近代史 教育社会史	世界史
				世界経済史
				世界文化論
	佐々木 正寿	准教授	哲学 倫理学	倫理
				哲学
				人間と科学技術
	澤本 章一	教授	保健体育	保健・体育Ⅰ
				保健・体育Ⅱ
				保健・体育Ⅳ
	福島 英倫	教授	体育	保健・体育Ⅰ
保健・体育Ⅱ				
保健・体育Ⅳ				
宮川 敏春	教授	英語・英米文学 教育学	英語Ⅰ	
			英語Ⅲ	
			英語特論	
デービット・グラント	准教授	教科教育 言語学	英語表現基礎Ⅱ	
			英語表現	
赤山 幸太郎	准教授	アメリカ文学 批評理論 現代思想	英語Ⅱ	
			総合英語Ⅱ &英語演習基礎Ⅱ	
松本 知子	講師	英語学	英語Ⅱ	
			総合英語Ⅰ	
			英語Ⅲ &英語演習基礎Ⅱ	
福島 千津子	講師	英語教育学 応用言語学	英語Ⅰ	
			英語Ⅲ &英語表現基礎Ⅰ	
			総合英語Ⅰ	

&amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-①-1

「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(2/4)

## 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
総合科学科数理系	白木 久雄	教授	代数的位相幾何学	基礎数学B
				数学演習(留)
				&数学演習B
	秦泉寺 俊弘	教授	数学教育	基礎数学A
				線形代数
				&数学演習A
	高木 和久	准教授	数学教育 工学教育	微積分 I
				線形代数
				数学演習
				&微積分演習
	堀 佳城	准教授	物性理論	基礎数学A
				微積分 I
				数学特論
				&数学演習A &微積分演習
	市木 一平	講師	代数的位相幾何学	基礎数学B
				微積分 I
				線形代数
				&数学演習B &微積分演習
	後藤 章	嘱託教授	低温物理 物性基礎論	微積分 II
	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	物理1
				物理2
				*応用物理A
				&物理演習1 &物理演習2
	多田 佳織	講師	生物物理化学 分析化学 界面化学	化学1
化学2				
&化学演習				
生物				

\* は専門科目, &amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-①-1

「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(3/4)

## 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
機械工学科	長門 研吉	教授	エアロゾル工学 大気電気学 大気化学	物理2
				*応用物理A
				*応用物理C &物理演習2
				&物理学演習
				*応用物理演習
				*化学技術英語
				*創造設計演習
	北村 一弘	准教授	材料力学 破壊力学	*工学実験 II
				*卒業研究
				情報基礎
				*材料力学 I
				*材料力学 II
				*材料力学演習
				*計算機演習
電気情報工学科	谷澤 俊弘	教授	理論物理学 (物性理論)	*創造設計演習
				*工学実験 I
				*工学実験 II
				*卒業研究
				*数学概論B
				*数理解析
				*応用数学A
	高田 拓	准教授	地球磁気圏物理学 宇宙プラズマ物理学	*応用数学A演習
				*応用数学B
				*応用数学B演習
				数学演習
				*創造性教育セミナー
				*創造工学実験
				*卒業研究
佐藤 公信	助教	パターン認識 人工知能 画像処理 ニューラルネットワーク	*応用物理A	
			*応用物理C	
			*応用物理演習	
			物理2	
			物理3E	
			*応用物理B	
			*創造性教育セミナー	
物質工学科	大角 理人	助教	有機化学 有機合成化学 有機光化学	*創造工学実験
				*卒業研究
				&物理学演習
				*科学技術英語
				*エレクトロニクス実装工学
				情報基礎
				*創造設計基礎
	村本 真	助教	建築構造 建築計算力学	*電気工学実験 II
				*創造性教育セミナー
				*創造工学実験
				*卒業研究
				情報基礎
				*プログラミング I
				*有機化学 I
環境都市デザイン工学科	助教	建築構造 建築計算力学	*有機化学 III	
			*有機化学実験	
			*創造実験	
			*材料・生物学実験	
			*物質工学ゼミ	
			*卒業研究	
			情報基礎	
村本 真	助教	建築構造 建築計算力学	*土木・建築設計製図 I	
			*土木・建築実験及び測量実習 I	
			*土木・建築実験	
			*卒業研究	
			*構造力学 I	
			*土木・建築設計製図 I	
			*土木・建築実験及び測量実習 I	

一般科目を担当している専任教員の担当科目をすべて挙げた。ただし、専攻科科目は除く。

\* は専門科目, &amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 「専任教員・非常勤教員別一般科目担当教員配置状況一覧」(4/4)

## 非常勤教員

氏名	専門分野	担当科目名
北川 真人	中国古典文学 (唐代文学)	国語Ⅲ
森下 清二郎	社会科 (世界史・日本史・政治経済)	世界史 世界経済史
西森 啓祐	地理	政治・経済 環境地理学
小林直三	憲法学	法学A 法学B
梶原 太一	会計学 企業の分析と評価	経済学
池田 和夫	認知心理学	心理学
宮本 隆信	保健体育 体育科教育学	保健・体育Ⅲ
小林涼子	保健体育	保健・体育Ⅱ 保健・体育Ⅲ
市村 梨乃	保健体育	保健・体育Ⅰ 保健・体育Ⅳ
竹村 正	音楽 器楽 ピアノ	音楽
土方佐代香	美術	美術
西村 淑子	英語教育学 (TOEIC)	英語表現基礎Ⅰ &英語演習基礎Ⅰ &実力強化英語演習
池添 泰子	教科指導法 (英語)	英語Ⅲ
福江 満子	二重言語教育 異文化コミュニケーション	総合英語Ⅰ
塩見 由利	ドイツ語 比較文学	ドイツ語
藤井 幸一	教育工学 物理教育	&実力強化数学演習 物理3 *応用物理B &物理演習1 &物理演習2
尾崎 信一	化学教育 (環境計測化学)	化学2 化学3
島内 功光	有機合成	化学ⅡA *無機化学Ⅰ &物質工学総論
前田 公夫	有機化学 有機合成化学	化学ⅡB *材料化学 *材料化学演習

\* は専門科目, &amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 資料3-1-①-2

「一般科目担当専任教員の資格・採用前の経歴等」

	修士以上	高等学校教諭免許	民間企業	他大学等教育・研究機関
人数	24	10	1	19
割合	89%	37%	4%	70%

(出典 人事・労務係)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目担当教員の配置は各教員の授業科目と専門分野との整合性のとれた配置となっており、人数も高等専門学校設置基準を満たすものである。また、中学・高校・他高専・大学での教育経験者、修士・博士の学位取得者など多様な背景を持つ教員を配置している。英語を母国語とする教員を積極的に採用するなど、質・量ともに、教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

**観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

学科ごとの専門科目担当教員の配置状況(資料3-1-②-1)に示されているとおり、各教員の専門分野は、各学科の定める教育方針を達成するために必要な多様な教育内容に幅広く対応できるものである。したがって専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目との整合性はとれている。

専門科目を担当する専任教員の総数は現員47名(教授、准教授合計39名)である。高等専門学校設置基準第6条第3項では、4学科を有する場合の専任教員数は29名を下回ってはならないとあるが、本校ではこの基準を満たしている。また同8条によると、教授、准教授合計33名以上であることが必要であるが、本校ではこの基準も満たしている。専任教員のうち、博士の学位を有する者は全体の約91%である。また採用前の経歴についてみると、民間企業経験者は約39%、他大学等教育・研究機関における教育経験者は約39%であるなど、多彩な経験と教育能力に配慮した人員配置となっている(資料3-1-②-2)。

「専門科目担当教員の配置状況」(1/12)

<機械工学科>  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
機械工学科	杉山 和久	教授	超精密加工	数学概論A
				数理解析
				応用数学A
				創造設計演習
				応用数学A演習
				応用数学B
				応用数学B演習
				生産工学
				工学実験Ⅱ
				卒業研究
	永橋 優純	教授	エネルギー工学 熱流体工学 環境とエネルギー 流動層工学 (固気混相流)	基礎製図Ⅱ
				熱力学
				熱力学演習
				エネルギー工学
				機械工学基礎
				創造設計演習
				工学実験Ⅰ
				工学実験Ⅱ
				卒業研究
				流れ学
	竹島 敬志	教授	熱・流体工学	流れ学演習
				創造設計演習
				設計製図
				エネルギー環境論
				機械工学概論
				工学実験Ⅰ
				工学実験Ⅱ
				卒業研究
創造設計基礎				
電気基礎				
岸本 誠一	教授	センサ工学 半導体工学 固体電子物理学	計測工学	
			電気・電子工学	
			創造設計演習	
			工学実験Ⅰ	
			工学実験Ⅱ	
			卒業研究	
			*物理2	
			応用物理A	
			応用物理C	
			&物理演習2	
長門 研吉	教授	エアロゾル工学 大気電気学 大気化学	&物理学演習	
			応用物理演習	
			科学技術英語	
			創造設計演習	
			工学実験Ⅱ	
			卒業研究	
			創造設計基礎	
			機械工作法Ⅱ	
			材料学Ⅰ	
			設計工学	
鈴木 信行	教授	塑性加工 (超塑性成形) (逐次成形等) 金属材料 (Al合金, Ti合金)	基礎製図Ⅰ	
			創造設計演習	
			工学実験Ⅱ	
			卒業研究	
			基礎製図Ⅰ	
			プログラミングⅠ	
			材料力学Ⅰ	
			機械デザインⅠ	
			機械デザインⅡ	
			メカトロニクス	
赤松 重則	准教授	レーザー応用計測	創造設計演習	
			工学実験Ⅰ	
			工学実験Ⅱ	
			卒業研究	

\* は一般科目, & は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 「専門科目担当教員の配置状況」(2/12)

&lt;機械工学科&gt;

専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
機械工学科	北村 一弘	准教授	材料力学 破壊力学	*情報基礎
				材料力学Ⅰ
				材料力学Ⅱ
				材料力学演習
				計算機演習
				創造設計演習
				工学実験Ⅰ
				工学実験Ⅱ
	奥村 勇人	准教授	軽金属材料	卒業研究
				創造設計演習
				機械工作法Ⅰ
				材料学Ⅱ
				材料力学Ⅰ
				工作実習Ⅰ
				科学技術英語
				工学実験Ⅰ
	宮田 剛	准教授	光応用計測 生体計測 ロボット工学	工学実験Ⅱ
				卒業研究
				プログラミングⅡ
				振動工学
専門基礎演習				
創造設計演習				
工作実習Ⅱ				
工学実験Ⅰ				
武内 秀樹	准教授	希薄気体力学 分子熱流体工学 流体工学	工学実験Ⅱ	
			卒業研究	
			創造設計基礎	
			専門基礎演習	
			機械力学Ⅰ	
			創造設計演習	
			設計製図	
			工学実験Ⅰ	
中山 信	助教	制御工学	工学実験Ⅱ	
			卒業研究	
			基礎製図Ⅱ	
			制御工学	
			制御工学演習	
			創造設計基礎	
			メカトロニクス	
			創造設計演習	
電気情報	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	工学実験Ⅰ
				工学実験Ⅱ
				理論物理学 (物性理論)
				数学概論B
高田 拓	准教授	地球磁気圏物理学 宇宙プラズマ物理学	応用物理A	
谷本 壮	助教	レーザー・プラズマ 物理	工学実験Ⅱ	

\* は一般科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 「専門科目担当教員の配置状況」(3/12)

## &lt;電気情報工学科&gt;

## 専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
電気情報工学科	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	電気工学実験Ⅰ
				電気機器
				創造性教育セミナー
				創造工学実験
				工学実験Ⅱ
	今井 一雅	教授	宇宙電波工学 コンピュータ・ネットワーク 無線LAN e-Learning	情報通信ネットワークⅠ
				情報通信ネットワークⅡ
				電磁波工学
				創造性教育セミナー
				創造工学実験
	松内 尚久	教授	電磁環境	卒業研究
				電磁気学Ⅰ
				電磁気学Ⅱ
				電磁気学演習
				エネルギー環境論
				電気工学実験Ⅰ
				電気工学実験Ⅱ
				創造性教育セミナー
				創造工学実験
				卒業研究
	谷澤 俊弘	教授	理論物理学 (物性理論)	電気工学演習(留)
				数学概論B
				数理解析
				応用数学A
				応用数学A演習
				応用数学B
				応用数学B演習
				*数学演習
				創造性教育セミナー
				創造工学実験
山口 巧	准教授	ヒューマンコンピュータ インタラクション	卒業研究	
			電気回路Ⅰ	
			ネットワーク工学演習	
			通信工学	
			創造工学実験	
芝 治也	准教授	光物性計測と評価 ヒューマンインタフェース 機器開発	創造性教育セミナー	
			卒業研究	
			電磁気学基礎	
			電子回路工房	
			電気電子材料	
			創造設計基礎	
			電子回路Ⅱ	
電子回路演習				
吉田 正伸	准教授	パワーエレクトロニクス	創造工学実験	
			卒業研究	
			電磁気学基礎	
			電気回路Ⅱ	
			電気回路演習	
			パワーエレクトロニクス	
			電子制御実験	
創造性教育セミナー				
創造工学実験				
卒業研究				

\* は一般科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-②-1

## 「専門科目担当教員の配置状況」(4/12)

<電気情報工学科>  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
電気情報工学科	高田 拓	准教授	地球磁気圏物理学 宇宙プラズマ物理学	応用物理A
				応用物理C
				応用物理演習
				*物理2
				*物理3E
				応用物理B
				創造性教育セミナー
				創造工学実験
				卒業研究
	西内 悠祐	助教	非線形力学	&物理学演習
				プログラミング I
				プログラミング II
				情報工学
				電気工学実験 II
	佐藤 公信	助教	パターン認識 人工知能 画像処理 ニューラルネットワーク	電子制御実験
				創造性教育セミナー
創造工学実験				
卒業研究				
科学技術英語				
エレクトロニクス実装工学				
谷本 壮	助教	レーザー・プラズマ 物理	*情報基礎	
			創造設計基礎	
			電気工学実験 II	
			創造性教育セミナー	
			創造工学実験	
機械工学科	杉山 和久	教授	超精密加工	卒業研究
				電子回路 I
	永橋 優純	教授	エネルギー工学 熱流体工学 環境とエネルギー 流動層工学 (固気混相流)	電気工学実験 I
				工学実験 II
				電子制御実験
				創造性教育セミナー
	竹島 敬志	教授	熱・流体工学	創造工学実験
				卒業研究
	長門 研吉	教授	エアロゾル工学 大気電気学 大気化学	数学概論A
				機械工学基礎
				機械工学概論
				応用物理A

\* は一般科目, &amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 「専門科目担当教員の配置状況」(5/12)

<物質工学科>  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
物質工学科	岡林 南洋	教授	材料化学 環境化学	物理化学Ⅰ
				物理化学Ⅲ
				無機材料
				無機化学実験
				創造実験
				材料・生物学実験
				物質工学ゼミ
	土居 俊房	教授	生物プロセス工学 環境工学	卒業研究
				物質工学概論
				化学工学Ⅰ
				化学工学Ⅰ演習
				反応工学
				物理化学・化学工学実験
				創造実験
	中林 浩俊	教授	触媒化学 無機物性化学	材料・生物学実験
				物質工学ゼミ
				卒業研究
				物質工学概論
				物理化学Ⅱ
				物理化学Ⅱ演習
				材料分析
	中島 慶治	教授	物理化学	物理化学・化学工学実験
				創造実験
				材料・生物学実験
				物質工学ゼミ
				卒業研究
				基礎化学
				プログラミングⅡ
	安川 雅啓	准教授	無機材料科学	工業統計学
				工業統計学演習
定量分析化学実験				
定性分析化学実験				
創造実験				
材料・生物学実験				
物質工学ゼミ				
長山 和史	准教授	生物化学工学	卒業研究	
			化学工学Ⅱ	
			化学工学Ⅱ演習	
			酵素工学	
			有機化学実験	
			創造実験	
			材料・生物学実験	
物質工学ゼミ				
卒業研究				

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 「専門科目担当教員の配置状況」(6/12)

＜物質工学科＞  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
物質工学科	三嶋 尚史	准教授	ガラス化学 無機材料学	CAD演習
				無機化学Ⅱ
				化学生物実験
				物理化学・化学工学実験
				創造実験
				材料・生物工学実験
				物質工学ゼミ
	秦 隆志	准教授	生物物理化学 分析化学 環境科学	卒業研究
				生命科学概論
				生化学
				生化学演習
				生物物理化学
				物理化学・化学工学実験
				創造実験
	森長 久豊	准教授	高分子化学 環境化学	材料・生物工学実験
				物質工学ゼミ
				卒業研究
				環境概論
				有機化学Ⅱ
				有機化学Ⅱ演習
				有機材料
	大角 理人	助教	有機化学 有機合成化学 有機光化学	有機化学実験
				創造実験
				材料・生物工学実験
				物質工学ゼミ
				卒業研究
				*情報基礎
プログラミングⅠ				
東岡 由里子	助教	微生物生態学 環境微生物学	有機化学Ⅰ	
			有機化学Ⅲ	
			有機化学実験	
			創造実験	
			材料・生物工学実験	
			物質工学ゼミ	
			卒業研究	
戸部 廣康	嘱託教授	応用微生物学 天然有機物化学 遺伝子工学	生物	
			環境工学	
			安全工学	
			化学生物実験	
			定量分析化学実験	
			無機化学実験	
			創造実験	
高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	材料・生物工学実験	
			物質工学ゼミ	
			卒業研究	
			環境概論	
			遺伝子工学	
			細胞工学	
			創造実験	
総合 機械	杉山 和久	教授	応用物理A	
			数学概論A	
			数理解析	
電気	谷澤 俊弘	教授	理論物理学 (物性理論)	
			応用数学B 応用数学B演習	

\* は一般科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 「専門科目担当教員の配置状況」(7/12)

<環境都市デザイン工学科>  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
環境都市デザイン工学科	寺田 幸博	教授	海岸工学 津波防災工学 非破壊検査工学	水理学Ⅱ
				海岸水理学
				環境工学
				土木・建築設計製図Ⅰ
				土木・建築設計製図Ⅱ
				土木・建築実験
	小田 憲史	教授	建築構造力学 建築構造設計	卒業研究
				構造力学Ⅲ
				建築一般構造
				建築構造計画
				基礎製図
				土木・建築実験
	竹内 光生	教授	地域・都市計画 交通工学	卒業研究
				交通工学
				プログラミングⅠ
				都市計画
				建設社会学
				土木・建築実験及び測量実習Ⅰ
	西岡 建雄	教授	建築デザイン 木造システム住宅 まちづくり	土木・建築設計製図Ⅱ
				土木・建築設計製図Ⅲ
				土木・建築設計製図Ⅳ
				土木・建築設計製図Ⅳ
				建築設計製図
				卒業研究
	勇 秀憲	教授	構造工学 景観工学 工学教育	環境都市デザイン概論
				建築史
				建築計画Ⅰ
				建築施工及び建築法規
				専門基礎演習
				土木・建築設計製図Ⅱ
	岡林 宏二郎	教授	地盤工学 基礎工学 防災工学	土木・建築設計製図Ⅲ
				土木・建築設計製図Ⅳ
建築設計製図				
卒業研究				
構造力学Ⅲ				
プログラミングⅡ				
山崎 利文	教授	空間情報工学 地理情報システム 測量学	科学技術英語	
			橋梁工学	
			卒業研究	
			地盤工学Ⅰ	
			地盤工学Ⅱ	
			地盤工学Ⅲ	
山崎 慎一	准教授	水環境工学 衛生工学	防災工学	
			土木・建築実験及び測量実習Ⅲ	
			卒業研究	
			環境都市デザイン概論	
			測量学Ⅰ	
			測量学Ⅱ	
			施工管理学	
			基礎製図	
			土木・建築実験及び測量実習Ⅰ	
			土木・建築実験及び測量実習Ⅲ	
			卒業研究	
			卒業研究	
			水環境工学Ⅰ	
			水環境工学Ⅱ	
			土木・建築実験及び測量実習Ⅱ	
			土木・建築実験	
			卒業研究	
			卒業研究	

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-②-1

「専門科目担当教員の配置状況」(8/12)

<環境都市デザイン工学科>  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
環境都市デザイン工学科	横井 克則	准教授	コンクリート工学 設計材料学	建設材料学Ⅰ
				建設材料学Ⅱ
				コンクリート構造学Ⅰ
				コンクリート構造学Ⅱ
				土木・建築実験及び測量実習Ⅰ
				土木・建築実験及び測量実習Ⅱ
				土木・建築実験 卒業研究
	岡田 将治	准教授	河川工学 防災工学	専門基礎演習
				水理学Ⅰ
				環境水資源学
				土木・建築実験及び測量実習Ⅱ
				土木・建築実験及び測量実習Ⅲ
	村本 真	助教	建築構造 建築計算力学	土木・建築実験 卒業研究
				*情報基礎
				構造力学Ⅰ
土木・建築設計製図Ⅰ				
総合	高野 弘	教授	物性基礎論 物理教育	土木・建築実験及び測量実習Ⅰ
				土木・建築実験 卒業研究
機械	杉山 和久	教授	超精密加工	応用物理A
				数学概論A
				数理解析
電気	谷澤 俊弘	教授	理論物理学 (物性理論)	応用数学B
				応用数学B演習
				数学概論B

\* は一般科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-②-1

「専門科目担当教員の配置状況」(9/12)

<機械工学科>  
非常勤教員

氏名	専門分野	担当科目名
端 平雄	物理教育	*物理3
		応用物理B
		&物理演習1
		&物理演習2
八木 潤	トポロジー	数学概論B
吉田 鈴香	英語(国際コミュニケーション) 日本語教育	日本語(留)
		日本事情(留)

\* は一般科目, & は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-②-1

「専門科目担当教員の配置状況」(10/12)

&lt;電気情報工学科&gt;

非常勤教員

氏名	専門分野	担当科目名
八木 潤	トポロジー	数学概論B
野村 弘	パワーエレクトロニクス 制御工学 電気機器	制御工学
		制御工学演習
益弘 昌典	情報処理 電子工学	デジタル信号処理
		デジタル回路
若林 善兼	電気工学	エネルギーシステム工学
吉田 鈴香	英語(国際コミュニケーション) 日本語教育	日本語(留)
		日本事情(留)

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-②-1

「専門科目担当教員の配置状況」(11/12)

&lt;物質工学科&gt;

非常勤教員

氏名	専門分野	担当科目名
端 平雄	物理教育	*物理3
		応用物理B
		&物理演習1
		&物理演習2
小松 正幸	物理学	応用物理C
		応用物理演習
八木 潤	トポロジー	数学概論B
島内 功光	有機合成	*化学ⅡA
		無機化学Ⅰ
		&物質工学総論
前田 公夫	有機化学 有機合成化学	*化学ⅡB
		材料化学
		材料化学演習

\* は一般科目, &amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-②-1

「専門科目担当教員の配置状況」(12/12)

&lt;環境都市デザイン工学科&gt;

非常勤教員

氏名	専門分野	担当科目名
端 平雄	物理教育	*物理3
		応用物理B
		&物理演習1
		&物理演習2
八木 潤	トポロジー	数学概論B
明坂 宣行	設計製図	土木・建築設計製図Ⅱ
中濱 昌文	メカトロニクス 制御工学	応用物理C
		応用物理演習
石坂 靖英	建築整備	建築環境工学
		建築設備
黒岩 哲夫	構造力学 振動工学	土木・建築実験及び測量実習Ⅱ
		土木・建築実験

\* は一般科目, &amp; は時間割記載単位なし科目を示す。

(出典 人事・労務係, 教務係)

## 資料 3-1-②-2

## 「専門科目担当専任教員の資格・採用前の経歴等」

	博士	高等学校教諭免許	民間企業	他大学等教育・研究機関
人数	42	6	18	18
割合	91%	13%	39%	39%

(出典 人事・労務係)

## (分析結果とその根拠理由)

専門科目を担当する教員の配置状況は、資料 3-1-②-1 に示すとおり、授業科目と専門分野との整合性が取られたものとなっており、また人数も高等専門学校設置基準を満たすものである。また、博士号取得者、高等学校教諭免許取得者、民間企業経験者、他大学等教育・研究機関における教育経験者など、多様な背景を持つ教員を配置し、かつ専任教員と学生との共有時間を増やすなど、「徳性を養い、将来創造力のある風格高い人間・技術者」の育成を目指す本校教育方針を反映したものとなっており、専門科目教育課程を展開するのに十分な配置である。

**観点 3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

## (観点に係る状況)

専攻科の授業科目担当教員は、質・量ともに本校の教育目的を達成するために十分な配置となっている(資料 3-1-③-1)。特に、各専攻の学習教育目標のうち特色となるもの(資料 3-1-③-2)の達成に必要な多様な教育内容に対し、各教員の専門分野は幅広く対応できるものである(資料 3-1-③-3)。また専攻科科目担当専任教員の学位等の資格取得者数、民間企業経験者、他大学等教育・研究機関経験者数の割合(資料 3-1-③-4)からも分かるように、多様な経験と教育能力に配慮した人員配置となっている。

専攻科を準学士課程 4 年次からの教育プログラムについて、平成 19 年度には建設工学専攻が、平成 20 年度には機械・電気工学専攻及び物質工学専攻がそれぞれ JABEE 継続審査を受け、全専攻が継続認定されている。また本校の専攻科の教育実施状況等(専攻科審査)について、平成 17 年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の継続審査を受け、全授業科目は適切な教員が担っていると評価されている。以上のことは、観点相違はあるものの、本校専攻科科目担当教員の配置状況の適切さを表すひとつの指標になると思われる。

資料3-1-③-1

## 「専攻科担当教員の配置状況」(1/4)

全専攻共通科目(一般科目・専門基礎科目・専門共通科目)  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
総合科学科	池谷 江理子	教授	ジェンダー地理学 経済地理学 社会経済地理学 環境地理学	地域産業経済論
	佐々木 正寿	准教授	哲学 倫理学	技術者倫理
	宮川 敏春	教授	英語・英米文学 教育学	英語演習 I
	デービッド・グラント	准教授	教科教育 言語学	英語演習 I
				英語演習 II
白木 久雄	教授	代数的位相幾何学	解析学	
市木 一平	講師	代数的位相幾何学	代数学・幾何学	
杉山 和久	教授	超精密加工	生産工学特論	
機械工学科	永橋 優純	教授	エネルギー工学 熱流体工学 環境とエネルギー 流動層工学 (固気混相流)	技術者倫理
	長門 研吉	教授	エアロゾル工学 大気電気学 大気化学	現代物理学A
奥村 勇人	准教授	軽金属材料	材料科学	
藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	技術者倫理	
電気情報工学科	谷澤 俊弘	教授	理論物理学 (物性理論)	現代物理学B
	山口 巧	准教授	ヒューマンコンピュータイン タラクション	データベースシステム
	芝 治也	准教授	光物性計測と評価 ヒューマンインタフェース機 器開発	材料科学
佐藤 公信	助教	パターン認識 人工知能 画像処理 ニューラルネットワーク	応用情報処理	
物質工学科	岡林 南洋	教授	材料化学 環境化学	技術者倫理
	安川 雅啓	准教授	無機材料科学	材料科学
	三嶋 尚史	准教授	ガラス化学 無機材料科学	材料科学
	森長 久豊	准教授	高分子化学 環境化学	材料科学
大角 理人	助教	有機化学 有機合成化学 有機光化学	材料科学	
戸部 廣康	嘱託教授	応用微生物学 天然有機物化学 遺伝子工学	生命科学	
環境都市デザイン工学科	寺田 幸博	教授	海岸工学 津波防災工学 非破壊検査工学	技術者倫理
	山崎 慎一	准教授	衛生工学 水環境工学	環境工学特論
横井 克則	准教授	コンクリート工学 設計材料学	材料科学	
岡田 将治	准教授	河川工学 防災工学	環境工学特論	

## 非常勤教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
	前田 公夫		有機化学 有機合成化学	一般化学

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

「専攻科担当教員の配置状況」(2/4)

機械・電気工学専攻  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
機械工学科	杉山 和久	教授	超精密加工	生産工学特論
	永橋 優純	教授	エネルギー工学 熱流体工学 環境とエネルギー 流動層工学 (固気混相流) 熱・流体工学	技術者倫理
				エネルギー変換工学
				特別実験
				特別研究
	竹島 敬志	教授		伝熱工学
				工学基礎演習
				特別実験
	岸本 誠一	教授	センサ工学 半導体工学 固体電子物理学	特別研究
				センサ工学
				特別実験
電気情報工学科	長門 研吉	教授	エアロゾル工学 大気電気学	現代物理学A
				特別実験
	鈴木 信行	教授	塑性加工 (超塑性成形) (逐次成形等) 金属材料 (Al合金, Ti合金)	強度設計学
	赤松 重則	准教授	レーザー応用計測	特別実験
	北村 一弘	准教授	材料力学 破壊力学	特別研究
				シミュレーション工学
	奥村 勇人	准教授	軽金属材料	材料科学
特別実験				
宮田 剛	准教授	光応用計測 生体計測 ロボット工学	特別研究	
			ロボット工学	
武内 秀樹	准教授	希薄気体力学 分子熱流体工学 流体工学	特別実験	
			特別研究	
電気情報工学科	藤原 憲一郎	教授	パワーエレクトロニクス	エネルギー変換工学
				デジタル制御
				技術者倫理
				特別実験
	今井 一雅	教授	宇宙電波工学 コンピュータ・ネットワーク 無線LAN e-Learning	特別研究
				画像処理論
	谷澤 俊弘	教授	理論物理学 (物性理論)	特別実験
				現代物理学B
	山口 巧	准教授	ヒューマンコンピュータイン タラクション	特別研究
データベースシステム				
芝 治也	准教授	光物性計測と評価 ヒューマンインタフェース機	特別実験	
			材料科学	
吉田 正伸	准教授	パワーエレクトロニクス	特別実験	
			特別研究	
高田 拓	准教授	地球磁気圏物理学 宇宙プラズマ物理学	特別実験	
			特別研究	
佐藤 公信	助教	パターン認識 人工知能 画像処理	応用情報処理	
谷本 壮	助教	ニューラルネットワーク レーザー・プラズマ物理	電気電子回路工学	
			物性工学	
			工学基礎演習	
			特別実験	
				特別研究

非常勤教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
	野村 弘		パワーエレクトロニクス 制御工学 電気機器	パワーエレクトロニクス特論

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-③-1

## 「専攻科担当教員の配置状況」(3/4)

物質工学科専攻  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
物質工学科	岡林 南洋	教授	材料化学 環境化学	技術者倫理
				分析化学特論
				特別実験
				特別研究
	土居 俊房	教授	生物プロセス工学 環境工学	反応工学特論
				特別実験
				特別研究
	中林 浩俊	教授	触媒化学 無機物性化学	触媒化学
				特別実験
				特別研究
	中島 慶治	教授	物理化学	化学結合論
				特別実験
				特別研究
	安川 雅啓	准教授	無機材料科学	セラミックス化学
				材料科学
				特別実験
				特別研究
	長山 和史	准教授	生物化学工学	分離操作工学
				生物化学工学
				特別実験
三嶋 尚史	准教授	ガラス化学 無機材料科学	特別研究	
			固体化学	
			材料科学	
			特別実験	
秦 隆志	准教授	生物物理化学 分析化学 環境科学	特別研究	
			生化学特論	
			特別実験	
森長 久豊	准教授	高分子化学 環境化学	特別研究	
			高分子材料化学	
			材料科学	
			特別実験	
大角 理人	助教	有機化学 有機合成化学 有機光化学	特別研究	
			有機合成化学	
			材料科学	
東岡 由里子	助教	微生物生態学 環境微生物学	特別実験	
			特別研究	
戸部 廣康	嘱託教授	応用微生物学 天然有機物化学 遺伝子工学	生命科学	
			天然物有機化学	

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

資料3-1-③-1

## 「専攻科担当教員の配置状況」(4/4)

建設工学専攻  
専任教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
環境都市デザイン工学科	寺田 幸博	教授	海岸工学 津波防災工学 非破壊検査工学	海岸工学
				技術者倫理
				建設工学演習
				特別実験
	小田 憲史	教授	建築構造力学 建築構造設計	特別研究
				地震工学
				建設設計演習
				特別実験
	竹内 光生	教授	地域・都市計画 交通工学	特別研究
				計画システム分析
				建設工学演習
				特別実験
	西岡 建雄	教授	建築デザイン 木造システム住宅 まちづくり	特別研究
				建築設計演習
				特別実験
	勇 秀憲	教授	構造工学 景観工学	特別研究
				構造解析特論
				建設工学演習
				特別実験
	岡林 宏二郎	教授	地盤工学 基礎工学 防災工学	特別研究
				地盤工学特論
				基礎工学特論
				建設工学演習
山崎 利文	教授	空間情報工学 地理情報システム 測量学	特別研究	
			特別実験	
山崎 慎一	准教授	水環境工学 衛生工学	特別研究	
			環境工学特論	
			水環境工学特論	
			建設工学演習	
横井 克則	准教授	コンクリート工学 設計材料学	特別研究	
			材料科学	
			建設材料学特論	
			建設工学演習	
岡田 将治	准教授	河川工学 防災工学	特別研究	
			応用水理学	
			環境工学特論	
			建設工学演習	
				特別実験
				特別研究

## 非常勤教員

所属	氏名	職名	専門分野	担当科目名
	原 忠		防災工学	防災工学特論

(出典 人事・労務係, 企画係, 教務係)

## 資料3-1-③-2

「各専攻の学習・教育目標のうち特色となるもの」

機械・電気工学専攻	環境, 福祉等の地域のニーズに対応できるエネルギー, 制御・情報, 設計を含む機械・電気を融合した総合知識・技術
物質工学専攻	地域の特性を生かした, 新素材・バイオ・環境保全・情報などに関する専門応用知識
建設工学専攻	地域特性を生かした環境・防災・情報などを含む総合的知識

(出典 平成24年度専攻科学生の手引)

## 資料3-1-③-3

「専門分野の教員の配置と担当教育分野」

専攻	専門分野		教員	教育分野
機械・電気工学	エネルギー		藤原(憲), 松内, 吉田, 永橋, 竹島, 武内	流れ学, 熱力学, 流体力学, 伝熱工学, エネルギー工学, エネルギーシステム工学, パ
	制御・情報		藤原(憲), 今井, 山口, 芝, 西内, 谷本, 岸本, 赤松, 宮田, 中山	画像処理論, センサ工学, ロボット工学, デジタル制御, 電気電子回路工学, メカトロニクス, 電磁波工学, 通信工学, 計測工学, 電子回路II
	設計		松内, 佐藤, 杉山, 竹島, 北村, 鈴木, 奥村	生産工学, エレクトロニクス実装工学, シミュレーション工学, 工学基礎演習, 強度設計学
物質工学	新素材	無機材料分野	岡林(南), 中林, 安川, 三嶋	無機材料化学, 無機物性工学, セラミクス化学, ガラス化学, 触媒化学
		有機材料分野	中島, 森長, 大角	分子軌道理論, 計算機実験, 高分子化学, 有機合成化学
	バイオ	生物生産分野	土居, 長山, 秦, 東岡, 戸部	生体触媒, 廃棄物リサイクル, 応用微生物, 天然物有機化合物, 薬理化学, 環境
	環境保全 情報		土居, 秦, 東岡 中島, 大角	廃棄物リサイクル, 環境化学, 水質環境 計算機実験, 情報処理, プログラミング
建設工学	環境		勇, 横井, 山崎(慎)	景観工学, 水質環境工学, 衛生工学, コンクリート工学, 建設材料学
	防災		寺田, 小田, 竹内(光), 勇, 岡林(宏), 岡田	海岸工学, 津波防災工学, 地震工学, 構造工学, 地盤工学, 基礎工学, 防災工学, 河川工学
	情報		竹内(光), 山崎(利)	地域・都市計画, 交通工学, 空間情報工学, 地理情報システム

(出典 資料3-1-③-1, 平成24年度専攻科学生の手引)

## 資料 3-1-③-4

「専攻科科目担当専任教員の資格・採用前の経歴等」

	博士	高等学校教諭免許	民間企業	他大学等教育・研究機関
人数	39	9	18	21
割合	85%	20%	39%	46%

(出典 人事・労務係)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科授業担当教員の配置は、資料 3-1-③-1 及び資料 3-1-③-3 に示されるとおり、各専攻の定める学習・教育目標を達成するために必要な、多様な教育内容に幅広く対応できる専門分野、多様な経歴背景を持つ教員が配置されていて、本校教育目的の達成に十分な配置となっている。JABEE 継続認定や専攻科審査は、本校専攻科科目担当教員の適切な配置を裏付けるものである。

**観点 3-1-④：** 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

(観点に係る状況)

平成17年度末、平成24年度末年齢による本校教員の年齢構成を資料 3-1-④-1 に示す。定年退職等による専任教員の補充は教員選考委員会において、各科の状況に応じて、年齢構成の均衡を勘案しつつ、若手教員を積極的に採用している。また平成22、23、24年度に女性教員を採用し、現員68名中7名が女性教員と全体の約10%と増加傾向にあることから、性別構成にも十分配慮がなされている。

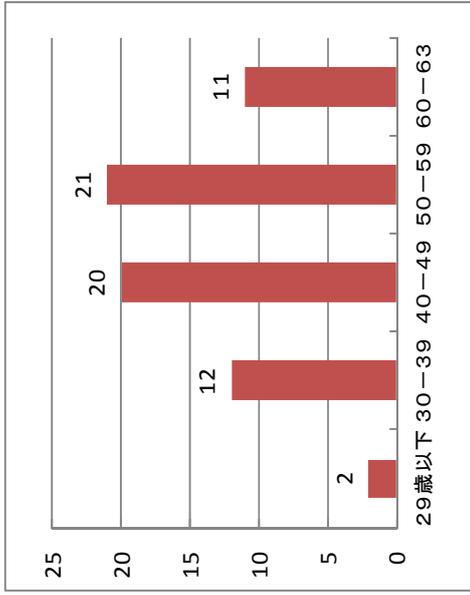
多様な背景を持つ、あるいは、優れた教育力・高度な実務能力を有する教員組織を構成するため、本校では、採用は公募としている(詳細は観点 3-2-②)。教育経験・実務経験を持つ者の任用状況(資料 3-1-④-2)が示すとおり、教育・実務経験者を積極的かつバランスを考慮し、採用している。また、本校に採用された専任教員在職者に対し、各学科では、内地・在外研究の際の業務負担など教員の協力・支援によって、在職者の積極的な学位取得を奨励している(資料 3-1-④-3)。

本校教育方針に掲げる「国際社会を主体的に生きる」技術者育成のため英語教育を重視し、平成12年度後期から現在に至るまで英語を母国語とする外国人教員を採用している。

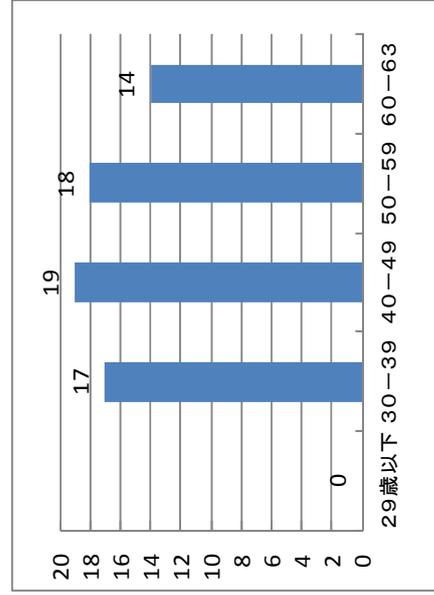
本校では平成14年度に「ベストティーチャー賞」と称する優秀教員顕彰制度を導入した。平成15年度に、後述の「個人評価委員会」が設置され、評価がなされている。また本校教職員表彰規則に基づき、顕著な功績を挙げた者を表彰している(資料 3-1-④-4)。

資料 3 - 1 - ④ - 1

「教員の年齢構成」



(a) 平成17年度末における年齢構成



(b) 平成24年度末年齢による4月1日現在の年齢構成

(出典 人事・労務係)

資料 3 - 1 - ④ - 2

「教育経験、実務経験を持つ教員の任用状況」

採用年	採用前の経歴
平成17年	大阪大学助手, 非常勤講師
平成17年	民間
平成17年	広島大学助手, 私立大学助手
平成17年	非常勤講師
平成18年	民間
平成18年	私立学校教員
平成18年	民間
平成19年	高知工科大学助教授
平成20年	高知県公立学校教員
平成20年	民間, 私立大学研究員
平成21年	民間, 非常勤講師
平成22年	民間
平成22年	宇宙航空研究開発機構研究員, 非常勤講師
平成22年	非常勤講師
平成22年	非常勤講師
平成22年	非常勤講師
平成22年	非常勤講師
平成23年	北海道大学非常勤研究員
平成23年	民間
平成24年	民間
平成24年	高知工科大学助教
平成24年	日本原子力研究開発機構博士研究員
平成24年	非常勤講師
平成24年	非常勤講師

(出典 人事・労務係)

資料 3 - 1 - ④ - 3

「学位取得実績一覧」

学 科	人 数
総合科学科	1
機械工学科	6
電気情報工学科	3
物質工学科	2
環境都市デザイン工学科	7

(出典 人事・労務係)

「教職員表彰規則及び実施状況」

高知工業高等専門学校教職員表彰規則

高知工業高等専門学校教職員表彰規則  
制定 平成23年2月17日  
一部改正 平成24年4月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育・研究・学生指導等の諸活動の活性化を図り、教職員の自己研鑽の果をあげることがを目的とし、顕著な功績を挙げた者を表彰するため定める。

(表彰の基準及び対象者)

第2条 表彰は、本校の教職員で、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- 一 教育活動に顕著な功績があった者
- 二 研究活動に顕著な功績があった者
- 三 学生指導に顕著な功績があった者
- 四 社会貢献に顕著な功績があった者
- 五 その他学校運営に顕著な功績があった者
- 六 その他顕著な功績及び本校の名譽を著しく高めたと校長が認める者

(被表彰者の決定)

第3条 被表彰者の決定は、個人評価委員会の議を経て校長が行う。

(表彰の方法等)

第4条 表彰は、毎年度末に、校長が被表彰者に別紙様式による表彰状及び副賞を授与することにより行う。ただし、一旦表彰を受けた者は、原則として、その年度から5年間は、表彰の対象外とする。

2 表彰結果は、校内外に公表する。

(事務)

第5条 教職員表彰に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、教職員表彰の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成23年2月17日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

平成23年度第2回教員の個人評価委員会

議事要録

日 時 平成24年3月7日（水） 13:20～13:50

場 所 管理棟2階中会議室

出席者 校長、教務主事、学生主事、業務主事、事務部長

陪席者 総務課長、課長補佐（総務担当）、人事・労務係長

配付資料

【資料1】高知工業高等専門学校教職員表彰規則

【資料2】教職員推薦者一覧、教職員表彰状況

【資料3】高知工業高等専門学校教職員表彰規則（案）

【資料4】平成24年度計画原案

議 題

1. 平成23年度高知工業高等専門学校教職員表彰規則第3条による候補者の選考について

【審議の結果】

第5号 葉泉寺俊弘 第2条（表彰の基準）3号にあたる

以上1名の候補者が選考され了承された。

表彰状の日付けは3月7日（本日）

4月4日（水）教員会で表彰されることが決定された。

2. 高知工業高等専門学校教職員表彰規則（申し合せを含む）の一部改正（案）について

事務部長から資料3に基づき、高知工業高等専門学校教職員表彰規則（申し合せを含む）の一部改正について説明が行われ、審議の結果、了承された。

3. 平成24年度計画原案の作成について

校長から資料4に基づき、平成24年度計画原案の作成について説明が行われ、内容を確認した結果、以下のとおり修正することとなった。

4/12ページ中、「⑨校内教職員表彰制度の活用」を「⑩校内教職員表彰制度の活用」に、11/12ページ中、「⑥教職員表彰制度の運用」を「⑦職員表彰制度の運用」に、

「平成23年度の検討を踏まえ、規定した教職員表彰制度を運用する。」を「平成23年度の検討を踏まえ、規定した職員表彰制度を運用する。」に修正することとした。

(出典 高知工業高等専門学校規則集, 個人評価委員会)

(分析結果とその根拠理由)

教員選考委員会において、各学科の状況を考慮しつつ、若手教員、女性教員を積極的に採用し、年齢・性別構成に配慮している。また教員の採用は公募とし、教育・実務経験者、英語を母国語とする専任教員など、多様な背景を持つ教員を積極的かつバランスよく採用し、本校に採用された専任教員在職者に対する学位取得も奨励している。更に、優秀教員顕彰制度、本校教職員表彰制度を導入するなど、教員組織の活動を活発化するための適切な措置が講じられている。

**観点 3-2-①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。**

(観点に係る状況)

教員個人の教育研究活動等の評価（以下「個人評価」という）について、適切な個人評価を行うため、個人評価委員会を置き、全教員の教育活動に対する定期的な評価を毎年度実施している。個人評価は、教育・研究・地域振興・管理運営面の活動、自己目標と達成状況、学生による授業評価及び教員による相互評価に基づいて、教育活動全般に関する評価を個人評価委員会が行う（資料 3-2-①-1）。

個人評価委員会は、評価資料として、毎年度当初に全教員に対し「教育研究活動に係る自己申告書」、 「自己目標と達成状況」の提出を求めている（資料 3-2-①-2, 3）。報告された結果に対して、個人評価委員会において推薦条件を踏まえ審議を行い、候補者を選考し国立高等専門学校教員顕彰候補者として推薦している。

学生による授業評価アンケートは、独自に開発したウェブサイトを用いて教育改善推進委員会と教務委員会により毎年度前・後期各一回実施され、調査結果とその集計・分析及び各教員のコメントを取りまとめ、報告書を発行公表している（資料 3-2-①-4）。またその結果は非常勤教員を含む全教員・学生に迅速に開示し、個人評価委員会及び関係委員会に報告されている。

資料3-2-①-1

「高知高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項（平成15年6月5日 校長裁定）」

高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究活動等に係る  
評価及び運用に係る要項

平成15年 6月 5日校長裁定

(総旨)

第1 この要項は、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動の一層の活性化を図り、教育・研究課題としての質の向上が自律的かつ継続的になされる体制を構築するため、教員個人の教育研究活動等の評価（以下「個人評価」という。）とその運用に関し、必要な事項を定めるものとする。

(評価の対象)

第2 個人評価の対象とする教員は、本校の教授、准教授、講師、助教及び助手とする。

(個人評価委員会)

第3 適切な個人評価を行うため、個人評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、校長、各主事、専攻科長及び事務部長で構成する。

3 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(評価項目)

第4 本校の目的、目標を明確にし、その目標等を達成するために設定する個人評価の項目は、次のとおりとする。

- (1) 教育活動
- (2) 研究活動
- (3) 地域振興活動
- (4) 管理運営面の活動
- (5) 自己目標と達成状況
- (6) 学生による授業評価
- (7) その他個人評価に関し、校長が必要と認めたもの

2 各評価項目の事項等は、校長が関係委員会等に意見を求め、定めるものとする。

(評価の方法)

第5 個人評価は、原則として、各教員の自己申告によるものとし、あらかじめ明示された評価項目、各項目の事項、配点により評価を行うものとする。

(評価手続き)

第6 委員会は、各教員等から第4に規定する評価項目に対応して次の資料について提出を求め、評価を行うものとする。

- (1) 各年度当初に求める、前年度の活動実績を基とする「教育研究活動等に係る自己申告書」（第4第1項第1号～第4号関係）
- (2) 自己目標と達成状況（第4第1項第5号関係）
- (3) 学生による授業評価結果（第4第1項第6号関係）
- (4) 不定期に求める「教育研究業績書」（第4第1項第7号関係）

(評価の運用)

第7 各教員は、評価結果を、自己の教育・研究活動等の質の向上と活性化のために活用するものとする。

2 校長は、評価結果を、次の各項目の運用に反映させるものとする。

- (1) 勤給手当の加算
- (2) 昇給区分の決定
- (3) 校長裁定経費の配分
- (4) その他評価の運用に関し、校長が必要と認めたもの

(評価結果の公表)

第8 個人評価の結果及び運用については、個人情報として取扱い、原則として本人以外には公表しないものとする。

(その他)

第9 この要項に定めるもののほか、必要な事項は委員会が別に定めるものとする。

附 則

この要項は、平成15年6月5日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)



「個人評価実施状況」(2/3)

# 教育研究活動等に係る自己申告書

## (平成24年度)

所属		所属学科名を入力してください。
職名		職名を入力してください。
氏名		氏名を入力してください。

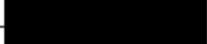
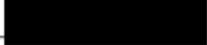
I. 教育等の活動					
1. 授業等の担当					
番号	評価項目	配点	実績	点数	備考
1	担当授業 (1) 適当たり授業単位数 1) 15単位時間以上: [3点] 2) 12~14単位時間: [2点] 3) 11単位時間以下: [1点]	(注1) 1単位時間: 約60分、実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。 (注2) 一つの授業科目を複数で担当する場合は、授業担当時間を適当りに平均化して、カウントして下さい。 1) 15単位時間以上: [3点] 2) 12~14単位時間: [2点] 3) 11単位時間以下: [1点]	2	2	
	(2) 正規授業以外	1) 進学・就職希望者、資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施: [3点] 2) 進学・就職希望者、資格試験受験者に実施: [2点] 3) 達成度の低い学生に実施: [2点] 4) 正規の授業で十分理解されていると思っっているため、補習授業は行っていない: [1点] 5) 補習授業は全く考えていない: [0点]	2	2	
2	授業内容・方法 (1) シラバスはあるか、有効に利用しているか	1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している: [3点] 2) シラバスはあり、およその目安としている: [2点] 3) シラバスはあるが、あまり利用していない: [1点] 4) シラバスはまだ作成していない: [0点]	1	3	
	(2) 教科書及び参考書は使用しているか	1) 自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している: [3点] 2) 自分が選定した教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している: [2点] 3) 自分で作った教材を使用しているため、教科書・参考書は使用していない: [2点] 4) 標準的な教科書あるいは参考書を使用している: [1点]	2	2	
	(3) 教育方法の工夫	1) 双方向型の授業やグループ学習など新しい教育方法を実施している: [3点] 2) 一方的な授業にならないように工夫して授業している: [2点] 3) だいたい一方的な講義形式で授業を行っている: [1点]	1	3	
	(4) 学生による評価の取り入れ	1) 授業の中で学生が学習到達度を自己点検できるような工夫をしている: [2点] 2) 学生による授業評価などを取り入れ、学生の要望にも対応できる授業を行っている: [1点]	1	2	
3	(1) 成績評価基準	1) 達成目標に対する達成度で評価している: [3点] 2) クラス内あるいは学年内での相対評価で決めている: [2点] 3) 上記以外の評価基準で評価している: [1点]	1	3	
	(2) 定期試験や小テストの答案の採点結果や評価結果などを学生本人に返却・通知しているか	1) 定期試験はもとより小テストやレポートを採点して学生に返却し、説明や添削を加え、よく理解させるようにしている: [3点] 2) 定期試験、小テスト、レポートは採点して学生に返却している: [2点] 3) 定期試験は採点して点数のみ通知している: [1点]	1	3	
	(3) 授業の効果の確認	1) 定期試験で確認するほか、レポートや宿題のチェック、アンケート調査、各種の実力試験、資格試験、コンテストの成績などで確かめている: [3点] 2) 定期試験で確認するほか、卒業研究の成果、就職・進学試験の結果などにより授業を与えた学生のその後の成長を確かめている: [2点] 3) 定期試験でのみ確認している: [1点]	1	3	
4	授業に関連する指導 (1) 欠課の多い学生にはどのように対応しているか	1) クラス担任と密接に連絡をとりながら早めに対応している: [3点] 2) 時期を見てクラス担任と連絡をとりながら、独自でも対応している: [2点] 3) 独自で対応している: [1点]	1	3	
	(2) オフィスアワーの設定と活用	1) オフィスアワーを設けているが、それ以外でも学生の来室に快く応じている: [3点] 2) オフィスアワーを設けて、活用している: [2点] 3) オフィスアワーは特設していないが、学生の来室には快く応じている: [2点] 4) オフィスアワーは特設しておらず、学生の来室には、時間的、時間的な制約を設けている: [1点]	1	3	
	(3) 卒業論文指導の状況 (1) 指導学生数	(職位、役職を考慮) 1) 標準より多い学生数を指導している: [2点] 2) 標準の学生数を指導している: [1点] 3) 標準より少ない学生数を指導している: [0点]		0	
	(2) テーマ	1) 学生一人ひとりに別々のテーマを与えた: [3点] 2) 複数の学生に同一のテーマを与えたところ、各自が独自の論文を作成することができ、独自性は発揮できた: [2点] 3) 複数の学生に同一のテーマを与えたところ、各自が独自の論文を作成することができず、独自性は発揮できなかった: [1点] 4) 不適切なテーマであった: [0点]		0	
5	(3) 卒業発表時の評価(学生の資質と指導効果を評価)	1) 学生一人ひとりを良く指導した結果、全て立派な発表であった: [3点] 2) 学生一人ひとりを良く指導した結果、ほぼ満足な発表であった: [2点] 3) 学生の資質を考慮すれば、適切な発表であった: [1点] 4) 全てにおいて指導の不足が見られる発表であった: [0点]		0	
	(4) 卒業論文の評価(学生の資質と指導効果を評価)	1) 学生一人ひとりを良く指導した結果、全て満足な論文であった: [3点] 2) 学生一人ひとりを良く指導した結果、ほぼ満足な論文であった: [2点] 3) 学生の資質を考慮すれば、まずまずの論文であった: [1点] 4) 全てにおいて指導の不足が見られる論文であった: [0点]		0	
	(1) 授業の方法等	1) 留学生がいることを念頭に置いて、常に工夫を凝らして行っている: [2点] 2) 留学生用に必要に応じて工夫を凝らして行っている: [1点] 3) 留学生がいることに留意、工夫することはない: [0点]		0	
	(2) 課外授業(正規の授業以外の授業)	1) 課外授業を頻繁に行っている: [2点] 2) 課外授業を求めに応じて行っている: [1点] 3) 課外授業は行っていない: [0点]		0	
6	(3) 生活面の指導や相談について	1) 生活指導や相談を積極的に頻繁に行っている: [2点] 2) 生活指導や相談は求めに応じて行っている: [1点] 3) 生活指導や相談に留意することはない: [0点]		0	
	小計			29	
				最高49点	

(出典 人事・労務係)

資料3-2-①-2

「個人評価実施状況」(3/3)

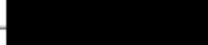
自己目標と達成状況(平成23年度)

所属:   
 職名:   
 氏名: 

・平成23年度に計画する自己目標を申告し、各項目の申告内容について、年度終了後、目標の達成度を自己検証する。

事項	自己目標	達成度
1. 教育に関する事項 ①授業に関すること	「読む力」「書く力」「言葉の知識」の三つの柱を中心として、総合的な国語力を習得させる。	グループ学習も取り入れて「読む力」を向上させ、小論文や短歌の作成で「書く力」および表現力を身につけさせた。漢字テストや補助教材によって「言葉の知識」も増やし、1年次に学ぶべき総合的国語力が習得されたと考えられる。(達成度80%)
②学生生活指導に関すること	学生たちが、学業のみならず、部活動、ボランティア活動などにも真剣に取り組めるよう、指導、支援する。	部活動の担当や賽での平高直・日直の際、助言・指導を丁寧に行った。学生生活委員として、総合科学科棟1階での挨拶指導(出張などで不在以外は毎日)、献血の正しい取り組み方の説明等に携わった。(達成度70%)
③その他	日本文化の視点から技術者倫理観形成のための教材を開発し、それを活用して、環境問題を捉える普遍的視座を学生に身につけさせることに努める。	自らの専門である日本文化論を踏まえた上で、水をテーマとした環境問題に関連する教材を扱い、技術者倫理の基礎を学ばせた。また、百人一首を精進させることで、日本の伝統文化への関心を喚起した。(達成度70%)
2. 研究に関する事項	能、高知および四国内の祭礼などを調査・研究し、日本文化および日本人の思想の研究を深めていく。	人間文化研究機構連携研究『自然と文化』に参画し、能における山川草木思想についての研究を行った。能の舞臺をはじめとして、各地の祭礼や風習の調査を行った。(達成度70%)
3. 運営への参加に関すること (学校全体及び所属学科)	学生生活委員会・進路支援室の活動を積極的に担当し、学生の指導に努め、学科事務室のPC環境を管理する。	学生生活委員として朝限指導、挨拶指導を率先して行い、進路支援室委員として履歴書作成指導の講義を行ったほか、各種委員会の活動に積極的に関わった。1、2年生の定期試験後のアンケート結果を集計・分析を行い、学級経営に役立つデータを担任に提供した。(達成度80%)
4. 地域社会との連携に関する事項	南国市との共催事業である高知高専教養講座への出講、および出前授業を行なう。	南国市共催教養講座で講演「能は語学」を担当した。南国市の偉人(江戸時代後期)である細川半蔵をテーマに技術者教育を行い、同時に南国市観光資源の発掘に努めた。(達成度80%)
5. その他	高専内では、他学科との共同研究を行う。また、長岡技術科大との連携教育研究の企画・実施を行う。	M科の協力を得て、細川半蔵をテーマとした技術者教育を行った。長岡技術科大との連携教育研究(高橋綾子准教授)を行い、同大学における「女子・高専・技大」コラボラムにて分科会を担当した。(達成度80%)

自己目標と達成状況(平成24年度)

所属:   
 職名:   
 氏名: 

・平成24年度に計画する自己目標を申告し、各項目の申告内容について、年度終了後、目標の達成度を自己検証する。

事項	自己目標	達成度
1. 教育に関する事項 ①授業に関すること	「読む力」「書く力」「言葉の知識」の三つの柱を中心として、総合的な国語力を習得させる。	
②学生生活指導に関すること	学生たちが、学業のみならず、課外活動などによって、風格のある人格を自ら形成できるよう指導する。	
③その他	技術と自然のバランスを正しく理解した技術者になることを目標とし、環境問題を的確に捉える能力を養う。	
2. 研究に関する事項	能、高知および四国内の祭礼などを調査・研究し、日本文化および日本人の思想の研究を深めていく。	
3. 運営への参加に関すること (学校全体及び所属学科)	学生生活委員会、進路支援室(副室長)、人権・倫理委員会の活動を積極的に担当し、学生の指導に努める。学科事務室のPC環境を管理する。	
4. 地域社会との連携に関する事項	南国市との共催事業である高知高専教養講座への出講および地域連携教育のプロジェクトを引き続き行う。	
5. その他	高専内において他学科との共同研究を行う。また、長岡技術科大との連携教育研究の企画・実施を行う。	

(出典 人事・労務係)

「個人評価委員会活動実績」

平成23年度第2回教員の個人評価委員会  
議事録

日 時 平成24年3月7日(水) 13:20~13:50

場 所 管理棟2階会議室

出席者 校長、教務主任、学務主任、事務主任、専任講師

出席者 総務部長、職員補佐(総務担当)、人事・労務部長

配付資料

- 【資料1】高知工業高等専門学校教員表彰制度
- 【資料2】教員表彰制度一覧、教員表彰状
- 【資料3】高知工業高等専門学校教員表彰制度(案)
- 【資料4】平成24年度年度計画案

議 程

1. 平成23年度高知工業高等専門学校教員表彰制度案による教員表彰について

【表彰の概要】

第5年 第2条(表彰の基準)3号に於ける

以上1条の教員が顕著な功績を挙げた。

表彰の日付は3月7日(本日)

4月4日(水)教員会で表彰されることが決定された。

2. 高知工業高等専門学校教員表彰制度(併し併せ含む)の一部改正(案)について

専任講師から資料3に基づき、高知工業高等専門学校教員表彰制度(併し併せ含む)の一部改正について説明が行われ、審議の結果、了承された。

3. 平成24年度年度計画案の作成について

校長から資料4に基づき、平成24年度年度計画案の作成について説明が行われ、内容を承認した結果、以下のとおり修正することになった。

①はページ9、「(学内教員表彰制度の活用)」を「(学内教員表彰制度の活用)」とし、117ページ9、「(教員表彰制度の活用)」を「(教員表彰制度の活用)」とし、

「平成23年度の表彰を踏まえ、規定した教員表彰制度を運用する。」を「平成23年度の表彰を踏まえ、規定した教員表彰制度を運用する。」に修正することとした。

平成23年度第1回個人評価委員会議事録

1. 日 時 平成23年10月24日(月) 14:20~15:20

2. 参 員 校長、教務主任(専任講師)、学務主任、教務主任、専任講師

3. 陪 席 者 総務部長、総務担当部長補佐、人事・労務部長

4. 配付資料

- ・教員による自己評価結果(明白別)……………【資料1】
- ・教員による自己評価結果……………【資料2】
- ・学生による教員評価結果……………【資料3】
- ・教員の相互評価結果……………【資料3】
- ・教員顕彰推薦書(平成14年度~)……………【資料4】
- ・高知高専卒業生会報(中野刊)・平成23年度年度計画案【資料5】
- ・国立高専専門学校教員顕彰制度項……………【参考】
- ・高知工業高等専門学校における教員個人の教育研究評価等  
に係る評価及び運用に係る要項……………【参考】

○ 議 程

1. 平成23年度国立高専専門学校教員顕彰制度案の審議について

資料1~4を基き、推薦条件を拡大し推薦を行うた結果、一般教員は[ ]、専任講師は[ ]、主任講師は[ ]、主任講師を顕彰者として推薦することとした。

2. 平成23年度年度計画の進捗状況について

資料5に基づき、内容を承認し、以下のとおり修正することとした。

(2) 教員表彰の活用(専任講師)の活用による年度計画の進捗状況は「5月に教員表彰状を授与し、専任講師の顕彰による年度計画の進捗状況を踏まえ、10月個人評価委員会を開催し、専任講師の顕彰者を選定する」と修正。

## 「学生による授業評価アンケート実施状況」

## 1. 授業評価アンケートについて

## 1.1 調査目的

本校では、FD (Faculty Development) 活動の一環として、平成 11 (1999) 年度から学生による授業評価アンケートを実施し、各教員が授業方法の工夫や改善を行ってきた。さらに平成 15 (2003) 年度からは、学生からの授業に対する評価を集約・分析し、全学的な授業方法の改善にフィードバックすることを目的として、授業評価 Web アンケートシステムを独自に開発し、全科目について「学生による授業評価のためのアンケート」調査を実施している。学生のアンケート実施後、その結果を受けて教員は対象授業の授業改善に関するコメントを Web 上で入力している。さらにその後、授業評価アンケートと教員コメントを、学生に開示しフィードバックを行っている。

## 1.2 実施要領

学生による授業評価アンケートは平成 20 (2008) 年度より前期・後期の年 2 回実施している。

表 1.1 は、平成 21 (2009) ～23 (2011) 年度の学生による授業評価アンケートの実施期間、教員のコメント入力期間および結果・教員コメントの学生への開示期間を示す。

表 1.1 学生による授業評価アンケートの実施期間等

	項 目	実施期間
平成 21 年度前期	アンケート実施	6 月 19 日 (金) ～6 月 25 日 (木)
	教員のコメント入力	7 月 6 日 (月) ～7 月 17 日 (金)
	学生への結果開示	9 月 1 日 (火) ～9 月 11 日 (金)
平成 21 年度後期	アンケート実施	1 月 18 日 (月) ～1 月 22 日 (金)
	教員のコメント入力	2 月 4 日 (木) ～2 月 10 日 (水)
	学生への結果開示	2 月 26 日 (金) ～3 月 5 日 (金)
平成 22 年度前期	アンケート実施	6 月 21 日 (月) ～25 日 (金)
	教員のコメント入力	7 月 5 日 (月) ～7 月 23 日 (金)
	学生への結果開示	8 月 30 日 (月) ～9 月 10 日 (金)
平成 22 年度後期	アンケート実施	12 月 13 日 (月) ～12 月 17 日 (金)
	教員のコメント入力	12 月 20 日 (月) ～1 月 21 日 (金)
	学生への結果開示	1 月 24 日 (月) ～2 月 10 日 (木)
平成 23 年度前期	アンケート実施	7 月 4 日 (月) ～7 月 8 日 (金)
	教員のコメント入力	7 月 11 日 (月) ～7 月 29 日 (金)
	学生への結果開示	9 月 1 日 (木) ～9 月 30 日 (金)
平成 23 年度後期	アンケート実施	1 月 16 日 (月) ～20 日 (金)
	教員のコメント入力	2 月 9 日 (木) ～16 日 (木)
	学生への結果開示	2 月 24 日 (金) ～4 月 30 日 (月)

## 1.3 アンケートの設問

アンケートの設問は、

- ①授業について (授業方法) : 5 項目 (Q1-Q5)
- ②授業の内容について (授業内容) : 2 項目 (Q6-Q7)
- ③試験と成績について (成績評価) : 2 項目 (Q8-Q9)
- ④授業に対する取り組みについて (学生の授業意欲) : 2 項目 (Q10-Q11)
- ⑤授業全体について (総合評価) : 1 項目 (Q12)

の 12 項目で構成されている。

(出典「授業評価アンケート報告書 (平成 21 年度～23 年度)」)

(分析結果とその根拠理由)

本校では全教員の教育活動に対する定期的な評価について、個人評価委員会が毎年度適切に評価を行っている。報告された結果に対し、推薦条件を踏まえ審議し、国立高等専門学校教員顕彰候補者をの選考及び推薦を行っている。

学生による授業評価アンケートは、教育改善推進委員会と教務委員会が毎年2回実施し、調査結果とその集計・分析及び各教員のコメントを取りまとめ、報告書として発行公表して、教員の教育活動を定期的に評価している。

**観点 3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。**

(観点に係る状況)

教員の採用や昇格等に関する規定は、教員人事委員会規則(資料3-2-②-1)及び教員選考規則(資料3-2-②-2)に定められている。専任教員は教員選考基準(資料3-2-②-3)により、非常勤教員は非常勤講師雇用基準(資料3-2-②-4)により選考される(資料3-2-②-5)。

採用の場合は、教員人事委員会を経て、教員選考委員会において、教員募集要項を作成し、公募により行う。選考にあたっては、履歴書、研究業績リスト、主要論文、高等専門学校での教育並びに研究に対する抱負により、研修歴、教育研究上の業績を検討するなどの書類審査によって候補者を選考し、さらに面接及び模擬授業を実施することによって教育上の能力、研究上の能力、人物などについて総合的に判断し、適任者を決定する(資料3-2-②-6)。

昇任の場合は、教員人事委員会を経て、教員選考委員会において、教員昇任関係選考調書によって、主事補佐、委員、部活動顧問、研修歴、教育研究上の業績などについて昇任資格を確認し、面接試験により決定する。

非常勤教員の採用は、非常勤講師雇用基準により、毎年度末の開講計画時に、各学科長が候補者を推薦し、教務主事との合意の下、教務委員会で審議し、選考結果を校長に報告し、校長は運営会議に報告する。新規採用の場合には、事前に校長が面接を行う。

「教員人事委員会規則」 (1 / 2)

### 高知工業高等専門学校教員人事委員会規則

制 定 平成 21 年 10 月 15 日

一部改正 平成 24 年 4 月 1 日

(趣旨)

**第 1 条** 高知工業高等専門学校 (以下「本校」という。) に、高知工業高等専門学校内部組織規則第 16 条の規定に基づき、高知工業高等専門学校教員人事委員会 (以下、「人事委員会」という。) の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

**第 2 条** 人事委員会は、現在及び将来の定員充足状況を把握し、本校の将来計画を踏まえ教員の人事計画、再配置及び定員の運用調整等を審議し、教員の定員管理の円滑化を図ることを目的とする。

(定義)

**第 3 条** この規則において、「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第 3 条第 2 号に掲げる者をいう。

(審議事項)

**第 4 条** 人事委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教員の定員管理及び再配置に関すること。
- 二 教員の定員の運用調整に関すること。
- 三 教員の採用等 (内部昇任を含む。) に関すること。
- 四 教員の人事計画に関すること。
- 五 その他教員の人事に関すること。

(組織)

**第 5 条** 人事委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 校長
  - (2) 教務主事
  - (3) 専攻科長
  - (4) 各学科長
  - (5) 事務部長
- 2 人事委員会に委員長を置き (以下「人事委員長」という。)、校長をもって充てる。
  - 3 人事委員長は、人事委員会を招集し、その議長となる。
  - 4 人事委員長に事故あるとき、又は欠けたときは、人事委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の出席)

**第 6 条** 人事委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(採用等)

**第 7 条** 教員の採用は、原則として公募により行う。ただし、人事委員会が必要と認めるときは、昇任の方法により本校の教員をもって採用を行うべき職に充てることができる。

- 2 前項ただし書の昇任を行う場合には、学科長は、あらかじめ人事委員長に申し出るもの

## 「教員人事委員会規則」(2 / 2)

とする。

(選考の申出)

**第 8 条** 各学科長は、教員の選考の必要が生じたときは、別紙様式により、速やかに人事委員長に申し出るものとする。ただし、定年による退職の場合は、当該退職年度の 5 月末日までに申し出るものとする。

(教員選考委員会の設置)

**第 9 条** 人事委員長は、前条の申出があった場合及び教員を昇任させる場合には、人事委員会の下に教員選考委員会を設置するものとする。

2 教員選考委員会は、人事委員会の付託を受けて、教員の採用及び昇任に係る書類選考その他教員の人事に関し、審査する。

3 教員選考委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(学科間定員貸借)

**第 10 条** 各学科長は、学科間での定員貸借を希望する場合は、必要理由を付して人事委員長に申し出るものとする。

(選考の基準)

**第 11 条** 教員の選考の基準は、高知工業高等専門学校教員選考基準により行うものとする。

(運営会議への報告)

**第 12 条** 人事委員会における審議の結果については、速やかに運営会議に報告を行うものとする。

(事務)

**第 13 条** 人事委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

**第 14 条** この規則に定めるもののほか、人事委員会の運営について必要な事項は、別に定める。

**附 則**

この規則は、平成 21 年 10 月 15 日から施行する。

**附 則**

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)

資料 3-2-②-2

## 「教員選考委員会規則」

## 高知工業高等専門学校教員選考委員会規則

制 定 平成18年 2月16日

一部改正 平成24年 4月 1日

(設置)

**第1条** 高知工業高等専門学校に、高知工業高等専門学校教員人事委員会規則第9条第3項に基づき、高知工業高等専門学校教員選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

**第2条** 委員会は次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員選考方針及び公募に関すること
- (2) 教員選考の審査に関すること
- (3) その他教員の選考に関すること

(組織)

**第3条** 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 教務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 選考を申し出た学科の学科長
- (5) 校長が指名する教授 若干名

2 前項第5号の委員は、准教授、講師、助教又は助手の選考であり、かつ、特に必要があると認めた場合は、准教授を含めることができる。

(委員長)

**第4条** 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

**第5条** 委員会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開催することができない。

(委員以外の者の出席)

**第6条** 委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(教員人事委員会への報告)

**第7条** 委員会は、選考結果については速やかに高知工業高等専門学校教員人事委員会に報告を行うものとする。

(守秘義務)

**第8条** 委員は、教員の選考にかかる審議事項を他に漏らしてはならない。

(委員会の解散)

**第9条** 委員会は、選考した教員の発令をもって解散する。

(事務)

**第10条** 委員会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

**第11条** この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

**附 則**

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

**附 則**

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

**附 則**

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

**附 則**

この規則は、平成21年10月15日から施行する。

**附 則**

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)

## 「教員選考基準」

## 高知工業高等専門学校教員選考基準

制 定 平成 21 年 10 月 15 日

(趣旨)

**第 1 条** 高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考は、高等専門学校設置基準（昭和 36 年 8 月 30 日文科省令第 23 号）に定めるもののほか、この基準の定めるところによる。

(定義)

**第 2 条** この規則において「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第 3 条第 2 号に掲げる者をいう。

(教授の資格)

**第 3 条** 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- (1) 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- (2) 学位規則（昭和 28 年文科省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- (3) 大学（短期大学を含む）又は高等専門学校において、教授、准教授又は専任の講師の経歴のある者
- (4) 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
- (5) 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

(准教授の資格)

**第 4 条** 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- (1) 前条各号のいずれかに該当する者
- (2) 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者
- (3) 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- (4) 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者

(講師の資格)

**第 5 条** 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 第 3 条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- (2) 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者
- (3) 特定の分野について、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

(助教の資格)

**第 6 条** 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- (1) 第 3 条又は第 4 条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- (2) 修士の学位又は学位規則第 5 条の 2 に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- (3) 特定の分野について、知識及び経験を有すると認められた者

(助手の資格)

**第 7 条** 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学士の学位若しくは短期大学士の学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者
- (2) 前号の者に準ずる能力を有すると認められる者

(事務)

**第 8 条** 教員の選考に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

**第 9 条** この基準に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この基準は、平成 21 年 10 月 15 日から施行する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)

資料 3-2-②-4

「非常勤講師雇用基準」

## 高知工業高等専門学校非常勤講師雇用基準一部改正

平成 18 年 2 月 16 日 校長裁定  
一部改正 平成 23 年 1 月 21 日

(趣旨)

**第 1** この基準は、高知工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の資格及び雇用手続き等に関し、必要な事項を定める。

(雇用方針)

**第 2** 非常勤講師の雇用は、真に止むを得ない事情がある場合及び特殊な専門知識・技術を必要とする授業の実施により、授業内容の充実が期待される場合に行うものとする。

(資格)

**第 3** 非常勤講師となることのできる者は、次の各号に該当し、かつ、本校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1) 本校教員選考基準第 3 条から第 5 条に規定する講師以上の資格を有する者

(2) 雇用しようとする年度の末日の年齢が、満 65 歳以下の者

ただし、特殊な専門知識・技術を必要とする場合は、この限りでない。

(雇用計画)

**第 4** 非常勤講師を雇用しようとするときは、各学科長は、次に掲げる要件に留意のうえ、別紙「平成 年度非常勤講師雇用願」により年間雇用計画を作成し、雇用年度の前年度の 1 月下旬までに教務主事へ提出するものとする。

(1) 新規増員及び定年退職教員の雇用については、真に止むを得ない事情がある場合に限り、事前に教務主事に相談のうえ、校長の承認を得るものとする。

(2) 新規雇用予定者については、事前に校長面談を行うものとする。

2 年度の中途において、新たな雇用計画又は変更が生じたときは、学科長は速やかに別紙「平成 年度非常勤講師雇用願」により、教務主事に提出するものとする。

(雇用計画の審議)

**第 5** 教務主事は、第 4 の雇用計画について、速やかに教務委員会において審議し、非常勤講師雇用計画書を校長に提出する。

(報告)

**第 6** 校長は、非常勤講師雇用計画について、運営会議に報告するものとする。

(事務)

**第 7** 非常勤講師の雇用手続きに関する事務は、学生課の協力を得て、総務課において処理する。**附 記**

この基準は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

**附 記**

この基準は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

**附 記**

この基準は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

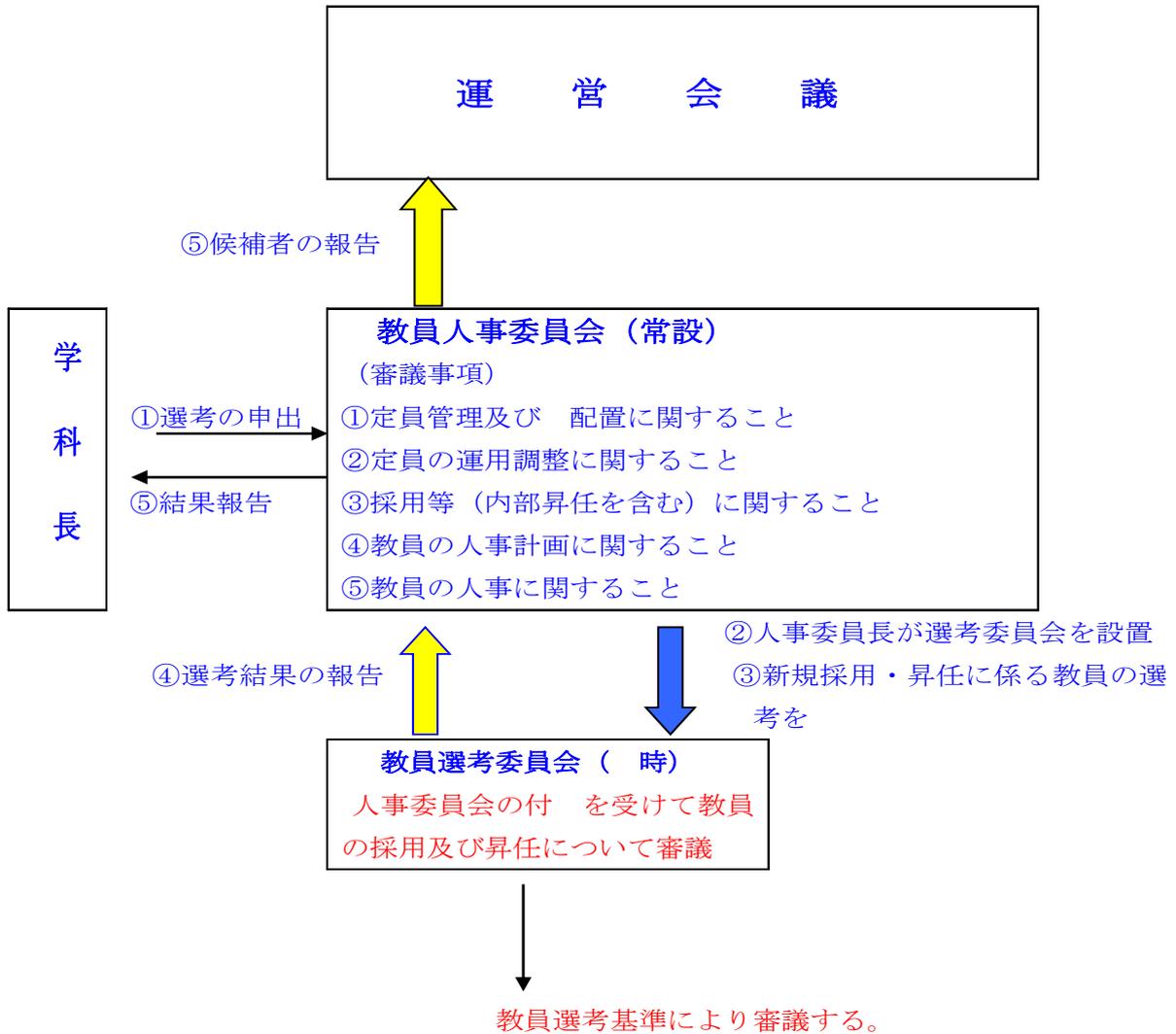
**附 記**

この基準は、平成 23 年 1 月 21 日から施行し、平成 21 年 10 月 15 日から適用する。

(出典 高知工業高等専門学校規則集)

「教員の採用・昇任に関する手続き規定」

1. 教員選考の場合



(出典 人事・労務係)

資料3-2-②-6

## 「教員募集要項」

平成 年 月 日

関係大学長  
国公立高等専門学校長高知工業高等専門学校長  
橋 英  
(公 )

教員の公募について( )

時下ますます御 のこととお び申し上げます。  
さて このたび本校では下 により教員を公募いたします。  
つきましては 関係者 御 知く さいますとともに 適任者の御推薦をいた きたく よ しく  
お い申し上げます。

1. 募集人員 助教 1名
2. 所属学科 学科
3. 専門分野 分野
4. 担当 定科目 .
5. 応募資格 (1) 上 専門分野を専攻し 全般的に実験・実習を担当できる方  
(2) 博士の学位を有する方 は 任時までに取得見 みの方  
(3) 学生指導(クラブ指導 生指導等)と教育に熱意を持ち 研究意 のある な方
6. 採用 定年月日 平成24年 4月 1日
7. 応募期 平成23年 7月2 日( ) 必
8. 選考方法 第一次選考 書類審査  
第 次選考 面接及び模擬授業(書類審査合格者に実施日時等を 接 します。  
なお 第 次選考に係る . 等は個人負担となります。)
- 提出書類 (1)履歴書(本校所定用 に本人自 付)(様 1)  
(2)研究業績リスト(著書 論文 口 発表等)(様 2)  
(3)主要論文等の別 5 以内(コ ー )  
(4)高等専門学校での教育並びに研究に対する抱負(2000 以内 様 3)  
様 1~3については 本校 ーム ージ教職員募集のお知らせ  
(<http://www.jm.kochi-ct.ac.jp/kobo/index.html>) から取得してく さい。
10. 提出 783-858  
高知県南国市物部 2 1  
高知工業高等専門学校総務課人事・労務係  
. の表には「 学科教員応募書類」と 書きし 必 書 で してく  
さい。
11. 問い合わせ 高知工業高等専門学校 学科長  
TEL 088-864- ( 通) 在時 088-864- (総務課人事・労務係)  
FAX 088-864- (総務課総務担当)  
E-mail @ .kochi-ct.ac.jp は @jm.kochi-ct.ac.jp
12. その他 . 応募書類は いたしま 。応募者の個人情報 は 本教員選考のために 用  
するものであり その他の目的に 用することはありま 。  
. 本校では採用に際して 女共同 画に配慮しており 女性の積極的な応募を期  
します。

(出典 人事・労務係)

(分析結果とその根拠理由)

専任教員の採用、昇格は、教員人事委員会規則及び教員選考規則により手続きを 確に定め、教員選考基準に基づき、適切な運用がなされている。非常勤教員の採用に関しても、非常勤講師雇用基準に基づき選考し、適切な運用がされている。

**観点3-3-①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

本校の事務組織は総務課と学生課から成り、それぞれ 割を分担しながら教育活動の展開を支援している(資料3-3-①-1)。 務、会計に係る事務は主に総務課が担当し、教務に係る事務は主に学生課が担当する。特に学生課では教育課程の 成及び授業に関すること等の教務的な事務は教務係が行い、学生の課外活動及び 利 生に関する業務等は修学支援係が、また学生 における事務は生活支援係が担当して、教員及び学生に対して教育支援を行っている。 書・情報係は総務課に所属し、事務・教育支援を行う。

学生の実験、実習、 業研究などの支援、教員の教育研究 の支援、地域 の技術支援等については本校教育研究支援センター所属の技術職員が担当する。各学科 の配置状況は、機械工学科4名、電気情報工学科2名、物質工学科2名、環境都市デザイン工学科1名、情報処理センター1名となっている(資料3-3-①-2)。

「高知高専事務組織」(1/2)

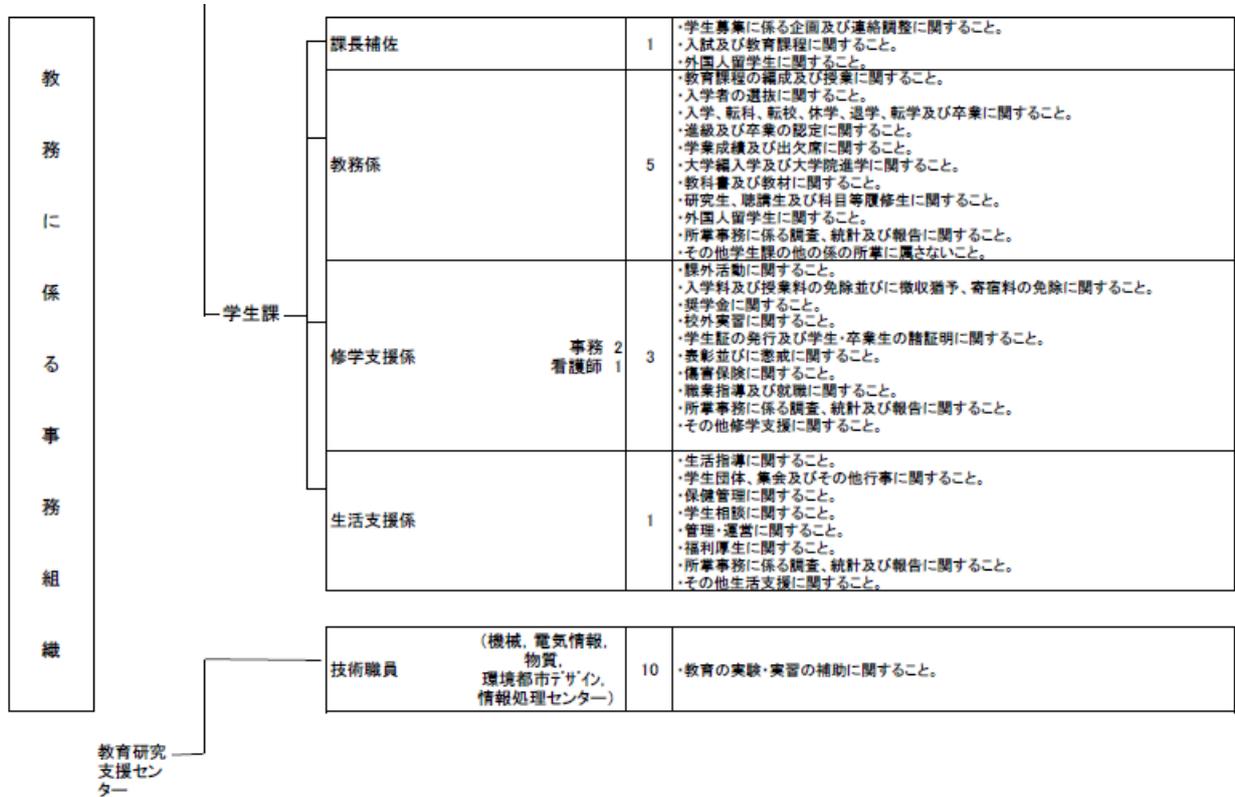
高知工業高等専門学校  
事務組織(事務部, 教育研究支援センター)

事務部

庶務に係る事務組織	事務部	課長補佐(総務担当)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開(個人情報保護関係含む。)に関すること。</li> <li>教職員の衛生管理に関すること。</li> <li>労務管理に関すること。</li> <li>情報セキュリティに関すること。</li> </ul>
		課長補佐(財務担当)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の財務に関する企画及び分析に関すること。</li> <li>会計の監査に関すること。</li> <li>予算要求(概算要求含む。)に関すること。</li> <li>教職員の安全管理に関すること。</li> <li>施設設備の整備に関すること。</li> </ul>
		総務係	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の事務の総務及び連絡調整に関すること。</li> <li>儀式その他諸行事に関すること。</li> <li>諸会議に関すること。</li> <li>諸規則の制定及び改廃に関すること。</li> <li>学術団体等との連絡に関すること。</li> <li>赤外及び秘書に関すること。</li> <li>法人文書等の授受、発送、整理及び管理に関すること。</li> <li>情報公開(個人情報保護関係含む。)に関すること。</li> <li>労働時間及び休憩に関すること。</li> <li>教職員の衛生管理に関すること。</li> <li>出張及び旅費(財務伝票の作成を除く。)に関すること。</li> <li>職員の宿日直(教員の学寮宿日直を除く。)に関すること。</li> <li>福利厚生及びレクリエーションに関すること。</li> <li>校内の警備に関すること。</li> <li>健康管理に関すること。</li> <li>所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。</li> <li>その他他の係の所掌に属さないこと。</li> </ul>
		企画係	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>中長期目標・計画に関すること。</li> <li>認証評価、自己点検・評価及び外部評価に関すること。</li> <li>JABEEIに関すること。</li> <li>科学研究費補助金及び寄附金(経理に関するものを除く。)に関すること。</li> <li>研究助成(経理に関するものを除く。)に関すること。</li> <li>各種研究員に関すること。</li> <li>知的財産権に関すること。</li> <li>産業界等との連携に関すること。</li> </ul>
		人事・労務係	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事、休暇・復職、懲戒及び身分保障に関すること。</li> <li>給与(財務伝票の作成を含む。)に関すること。</li> <li>栄典及び表彰に関すること。</li> <li>各種手当の認定に関すること。</li> <li>名譽教授に関すること。</li> <li>共済組合及び退職手当(財務伝票の作成を含む。)に関すること。</li> <li>個人評価に関すること。</li> <li>研修に関すること。</li> <li>災害補償に関すること。</li> <li>育児休業に関すること。</li> <li>労務管理に関すること。</li> <li>兼業に関すること。</li> <li>所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。</li> <li>その他人事・労務に関すること。</li> </ul>
		図書・情報係	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館資料の授受、整理、保管及び除籍等に関すること。</li> <li>図書の分類及び目録作成に関すること。</li> <li>図書の閲覧及び貸出し等図書の利用に関すること。</li> <li>図書のレファレンス・ワーク(図書館利用指導、文献探索指導等)に関すること。</li> <li>図書購入の契約に関すること。</li> <li>収入及び財務伝票の作成に関すること。</li> <li>指定図書の選定運用に関すること。</li> <li>学術紀要の発行に関すること。</li> </ul>
		財務係	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>総務課(財務担当)の事務の総務及び連絡調整に関すること。</li> <li>本校の財務に関する企画及び分析に関すること。</li> <li>会計の監査に関すること。</li> <li>契約、収入及び財務伝票の作成(人事・労務係所掌に属するものを除く。)に関すること。</li> <li>予算要求(概算要求含む。)に関すること。</li> <li>会計機関の公印の保管に関すること。</li> <li>予算、決算及び計算証明に関すること。</li> <li>資格審査に関すること。</li> <li>不動産の管理に関すること。</li> <li>土地、建物等の寄附及び借入れに関すること。</li> <li>教職員の安全管理に関すること。</li> <li>防火・防災に関すること。</li> <li>職員宿舎に関すること。</li> <li>委託研究及び共同研究の契約に関すること。</li> <li>委託研究及び共同研究等の経理(契約係及び図書・情報係の所掌に属するものを除く。)に関すること。</li> <li>科学研究費補助金及び寄附金の経理(契約係及び図書・情報係の所掌に属するものを除く。)に関すること。</li> <li>収入及び支出に関すること。</li> <li>現金、預金、貯金及び有価証券の出納に関すること。</li> <li>旅費、謝金等の支払いに関すること。</li> <li>債権の管理に関すること。</li> <li>所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。</li> </ul>
		契約係	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>物品(図書・情報係所掌に属するものを除く。)の購入、修理及び役務(施設係所掌に属するものを除く。)に関すること。</li> <li>契約、収入及び財務伝票の作成に関すること。</li> <li>物品の管理(図書を除く)に関すること。</li> <li>委託研究及び共同研究等に係る物品の購入、修理及び役務(施設係所掌に属するものを除く。)に関すること。</li> <li>科学研究費補助金等及び寄附金に係る物品の購入、修理及び役務(施設係所掌に属するものを除く。)に関すること。</li> <li>校内の清掃に関すること。</li> <li>物品の寄附に関すること。</li> <li>自動車の運用管理に関すること。</li> <li>所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。</li> <li>その他契約に関すること。</li> </ul>
		施設係	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備及び修繕工事の計画に関すること。</li> <li>施設関係の予算要求資料の作成に関すること。</li> <li>施設整備に係る工事等の工事契約及び請負契約に関すること。</li> <li>契約及び財務伝票の作成に関すること。</li> <li>土地、建物、電気、ガス、水道、電話、冷暖房設備の維持保全に関すること。</li> <li>所掌事務に係る調査、統計及び報告に関すること。</li> <li>その他施設に関すること。</li> </ul>

資料3-3-①-1

「高知高専事務組織」(2/2)



(出典 人事・労務係)

資料3-3-①-2

「教育研究支援センター技術職員活用状況」

配属	支援担当授業
機械工学科	工作実習 ～ ， 工学実験 ～ ， 電気工学実験 ， 創造設計基礎 ， 業研究 ， 土木・建 実験および測量実習
電気情報工学科	電気工学実験 ～Ⅱ ， 電子制御実験 ， 創造工学実験 ， 業研究 ， 創造設計基礎 ， 土木・建 実験および測量実習 ， 応用物理A ， 創造性教育セミナー
物質工学科	化学・生物実験 ， 定量分析化学実験 ， 無機化学実験 ， 創造実験 ， 業研究 ， 土木・建 実験および測量実習
環境都市デザイン工学科	土木・建 実験及び測量実習 ～ ， 土木・建 実験 ， 業研究
情報処理センター	プログラミング ～Ⅱ ， 情報通信ネットワーク ～Ⅱ ， 創造性教育セミナー ， 創造工学実験 業研究 ， 情報 末対応

全般に研究支援，技術開発，機 準 ・ 作 ， 学生 の技術指導，課外活動支援を行

(出典 教育研究支援センター)

(分析結果とその根拠理由)

教務関係事務職員、技術職員の業務も年々増大しているが、業務の合理化、職員の資質向上により、十分事務的・教育的支援を行っており、事務職員、技術職員等の教育支援者等は適切に配置されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校教員選考委員会において、各学科の状況を考慮しつつ、若手教員、女性教員を積極的に採用するなど、年齢構成・性別構成の配慮がなされている。また、全教員は毎年度「教育研究活動に係る自己申告書」、「自己目標と達成状況」を提出することにより、教員の教育活動の評価が継続して定期的実施されている。

本校教育改善推進委員会が独自に開発した授業評価ウェブサイト入力・集計システムにより、教育活動評価を迅速に行う体制が作られ、非常勤教員を含む全教員・学生に迅速に開示し、定期的な評価がなされている。

(改善を要する点)

全教員の教育活動に対する評価結果に基づく教員組織の見直しは十分になされているとは言いえない。

## (3) 基準3の自己評価の概要

教育活動を展開するために必要な一般科目、専門科目、専攻科科目を担当する教員は専門分野と担当授業科目との整合性がとれている適切な配置となっている。また修士・博士の学位取得者、中学・高校教育、他高専・大学等研究機関での教育経験者、民間企業経験者、高等学校教諭免許取得者など多様な背景を持った教員が、本校教育目的の達成のために適切に配置されている。平成17年度末の専攻科認定及び平成19、20年度のJABEE継続認定されたことから、このことは裏付けられている。教員組織の活動をより活発化させるために、若手教員、女性教員を積極的に採用するなどの年齢・性別構成の配慮がなされている。さらに英語を母国語とする専任教員の積極的な採用、優秀教員顕彰制度、本校教職員表彰制度を導入するなどの措置もなされている。

全教員の教育活動に関する評価については、「教員個人の教育研究活動等に係る評価及び運用に係る要項」を定め、自己評価、教員による相互評価及び学生による授業評価(授業評価ウェブサイト入力・集計システム採用)などに基づいて、個人評価委員会が毎年度行う体制が整えられ、評価が適切に実施されている。また報告された結果から、推薦条件を踏まえて審議を行い、候補者を選考し、国立高等専門学校教員顕彰候補者として推薦している。教員の採用、昇格は、教員人事委員会・教員選考委員会規則及び教員選考基準により手続きを明確に定め、適切な運用がなされている。

教務に係る事務職員、技術職員の業務もまた年々増大している中、業務の合理化、職員の資質向上によって、十分な事務的・教育的支援を行っており、本校教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等は適切に配置されている。